

# 木津川・桂川・宇治川圏域河川整備計画検討委員会

## 第15回資料

### (桂川上流圏域の整備目標)



平成27年3月20日

京都府

# 目 次

## 【桂川上流圏域の整備目標】

1.河川整備計画の目標 .....	3~4
2.課題と対応方針 .....	5
3.桂川上流圏域の治水対策の基本的な考え方 .....	6
4.整備対象河川の抽出 .....	7~9
5.整備対象河川の目標規模の設定 .....	10
参考資料(①~⑤) .....	11~15

---

# 【桂川上流圏域の整備目標】

# 1. 河川整備計画の目標（対象区間、対象期間）

## 淀川水系桂川上流圏域整備計画

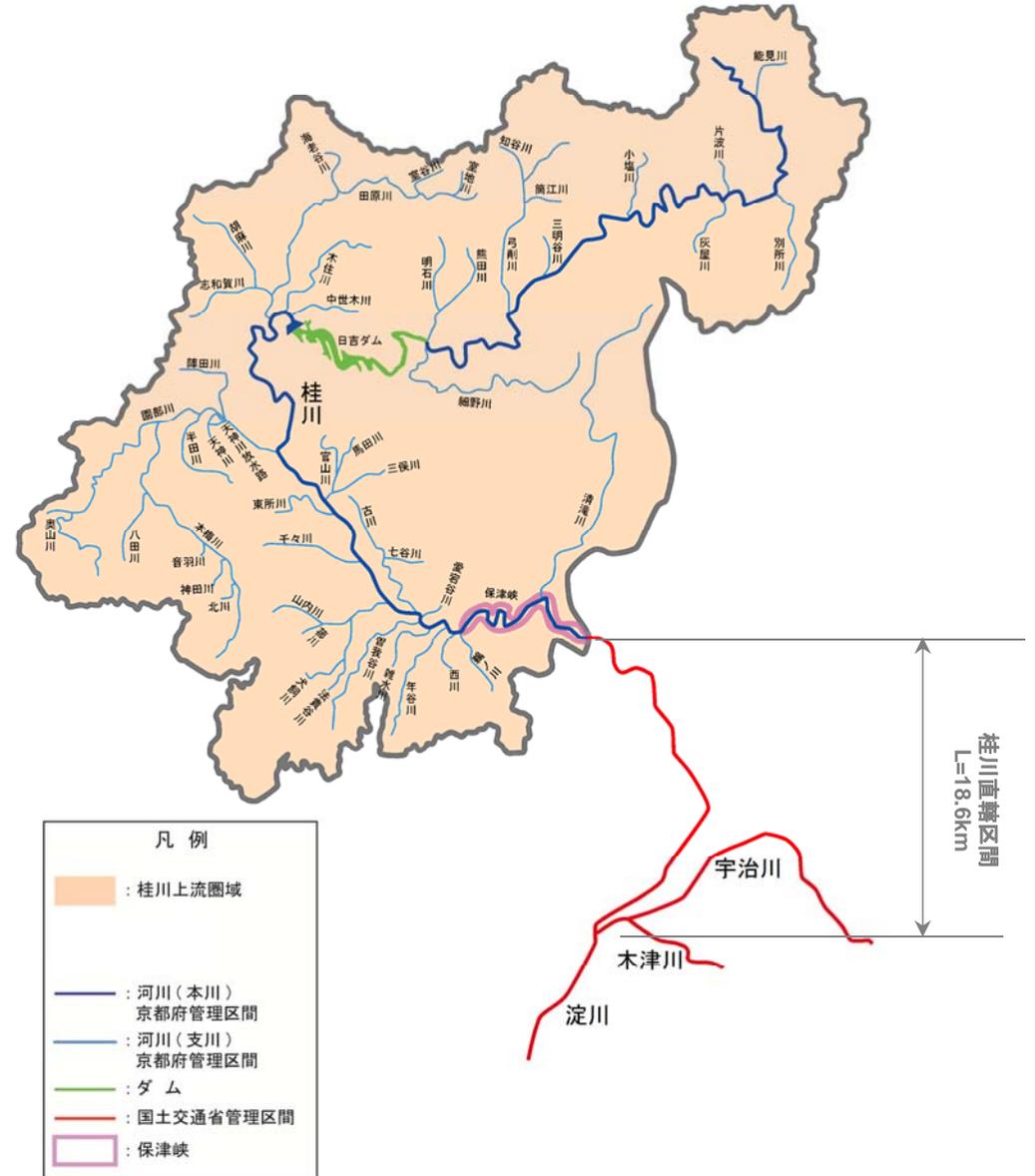
### 対象区間

淀川水系桂川上流圏域整備計画の対象区間は、本圏域にある府管理区間とする。

⇒ 桂川の本川(日吉ダム管理区間を除く)とその支川49河川

### 対象期間

本整備計画の対象期間は、概ね30年間とする。



# 1. 河川整備計画の目標（整備目標）

## 淀川水系桂川上流圏域整備計画

### 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する目標

桂川本川の整備にあたっては、平成21年に策定された淀川水系河川整備計画と整合を図り、桂川の流下能力、近年の被災状況及び地形の特性等を踏まえ、上下流バランスを勘案し、再度災害防止の観点から戦後最大の洪水である昭和28年台風13号洪水(概ね30年に1回程度の降雨により予想される洪水)を安全に流下させることを目標に、計画的に段階的な整備を進める。

支川の整備計画の目標は、概ね10年に1回程度の降雨により予想される洪水を安全に流下させることを目指すこととするが、圏域の全ての河川について直ちに被害軽減を図ることは、予算的、時間的な制約があり困難である。このため、本整備計画では、想定氾濫区域内の人口と資産、河川の現況流下能力、近年の出水による被害の発生状況、既存事業の継続性などを総合的に勘案し重点的かつ優先的に整備を実施する河川を抽出する。また、これら河川の整備目標は、地域状況や河川特性などを考慮し設定された長期的な将来の目標を踏まえ、上下流(本支川)バランス、浸水被害の早期解消・軽減、投資可能な事業費などの観点で、今後概ね30年間で実現可能な目標規模を設定する。

近年頻発する局地的な集中豪雨等による浸水被害の軽減に向けて、流域において効果的な雨水の流出抑制対策に取り組む。

その他の河川についても、局部的な改良、洪水等による被災箇所の復旧、治水上の支障となる堆積土砂の除去、堤防除草等により治水機能の適正な維持に努める。

また、土砂流出や流木の防止機能を有する森林の保全・整備の検討について、関係機関との連携を図る。

さらに、整備途上に起こる洪水や、整備目標を上回る洪水による被害を軽減するため、ハード対策だけではなく、ソフト対策を組み合わせた効果的な治水対策に努める。

### 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

桂川上流圏域の市街地を貫流する地区において、貴重なオープンスペースとしての水辺利用、豊かな自然環境を活かした水辺利用など、適正な水利用が図られるように努める。

さらに、良好な水質、水量、多様な生物の生息・生育環境の保全など流水の正常な機能が維持されるよう努める。

本圏域は、保津川下りなど水辺空間の利用が盛んであり、また、数多くの河川愛護活動が行われていることから、まちづくりと一体となった河川空間整備を地域との連携・協働により進める。

### 河川環境の整備と保全に関する目標

河川本来の変化に富んだ水辺の創出など、多様な生物が生息・生育する豊かな自然環境の保全・再生に配慮した河川整備を行う。また、堰や落差工により魚類等の縦断方向の連続性が損なわれている箇所については、魚道整備等を必要に応じ検討する。

特に、本圏域では国指定天然記念物のアユモドキなどの貴重種や多様な生物が生息している。そのため、生息する我が国固有の生物を中心として在来生物の生息・生育・繁殖環境の保全・再生について関係機関とも連携して取り組む。

また、河川工事の際には、生態系への影響を最小限に抑えるため、濁水の流下防止に努める。

さらに、景観に優れた地域では、周囲の景観に配慮した河川整備を図る。

## 2. 課題と対応方針

### [課題]

#### 【第14回資料】

- 桂川上流圏域と下流直轄区間は、ともに現在の流下能力では、平成16年台風23号と同程度の洪水で被害が発生する状況にあり、治水安全度の向上が必要である。
- 桂川は保津峡が狭窄部となっているため、洪水時には保津峡入口で水位が堰き上がり、亀岡盆地の霞堤から浸水する。
- 下流直轄区間は整備途上にあり、保津峡の掘削或いは桂川上流圏域の河川整備が先行した場合、下流に洪水が集中し大都市圏における重大な被害が生じるおそれがあるため、上下流間のバランスを保つことが重要である。
- 下流直轄区間は、沿川に密集市街地や流下能力の低い観光名所の嵐山地区を抱えており、大幅な河川整備の進捗には時間を要する可能性がある。  
また、平成25年台風18号による被害の発生をはじめ、近年の気候変化の傾向として記録的な大雨が全国各地で発生している状況等を踏まえ、桂川上流圏域の治水対策の検討にあたっては、流下能力を向上させる河道整備のほか、例えば流域での流出抑制など現在より治水安全度を向上させる方策についても検討していく必要がある。

### [対応方針]

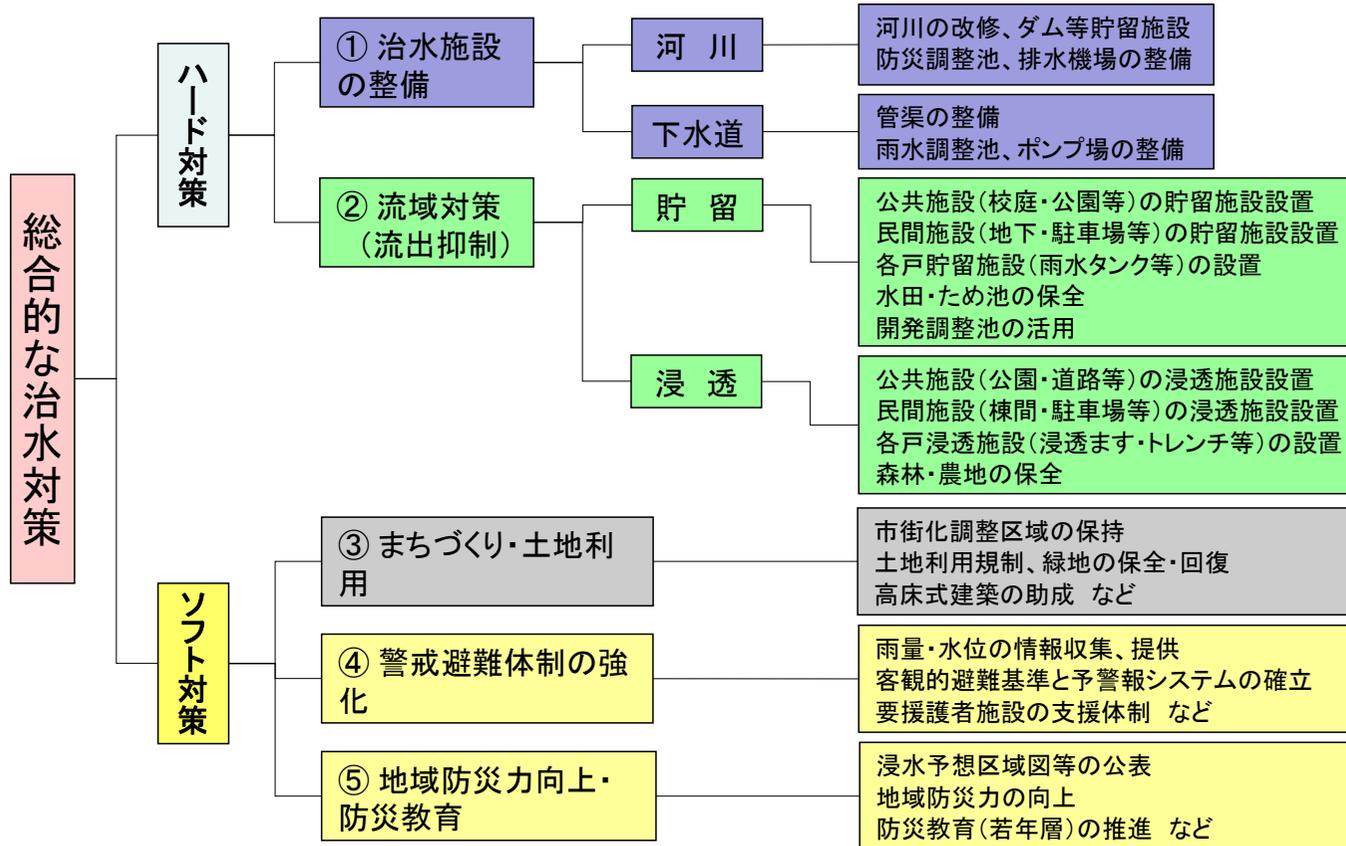
- 桂川本川の整備にあたっては、桂川の流下能力、近年の被災状況及び地形の特性等を踏まえ、上下流バランスを勘案し、計画的に段階的に流下能力の向上を図ることにより、浸水被害を軽減する。
- 桂川上流圏域における本川の整備について、下流直轄区間の整備との整合を図り、霞堤の遊水効果をできるだけ低下させないように整備を行っていく。
- 桂川上流圏域では、上下流の治水バランスを維持する必要があるため、下流の直轄区間の事業実施計画のステップを踏まえ、その河川整備状況に応じて段階的に流下能力の向上を図る。
- 直轄区間の事業ステップに整合した上流圏域の整備促進には時間を要すること、近年の記録的豪雨の発生状況を踏まえ、治水対策の検討にあたっては、河川改修をはじめ、流域における貯留施設などの流域対策や森林・農地の保全、土砂・流木対策、また、ハードだけでなくソフト対策などについても、国、市、町など関係機関と連携し、総合的な治水対策の検討を行う。

# 3. 桂川上流圏域の治水対策の基本的な考え方

## 桂川上流圏域の治水対策の基本的な考え方

### 桂川上流圏域の基本的な考え方

「総合治水対策」の体系施策イメージ



# 4. 整備対象河川の抽出 (1/3)

## 河川整備計画の整備対象河川の抽出

### 整備対象河川抽出の考え方

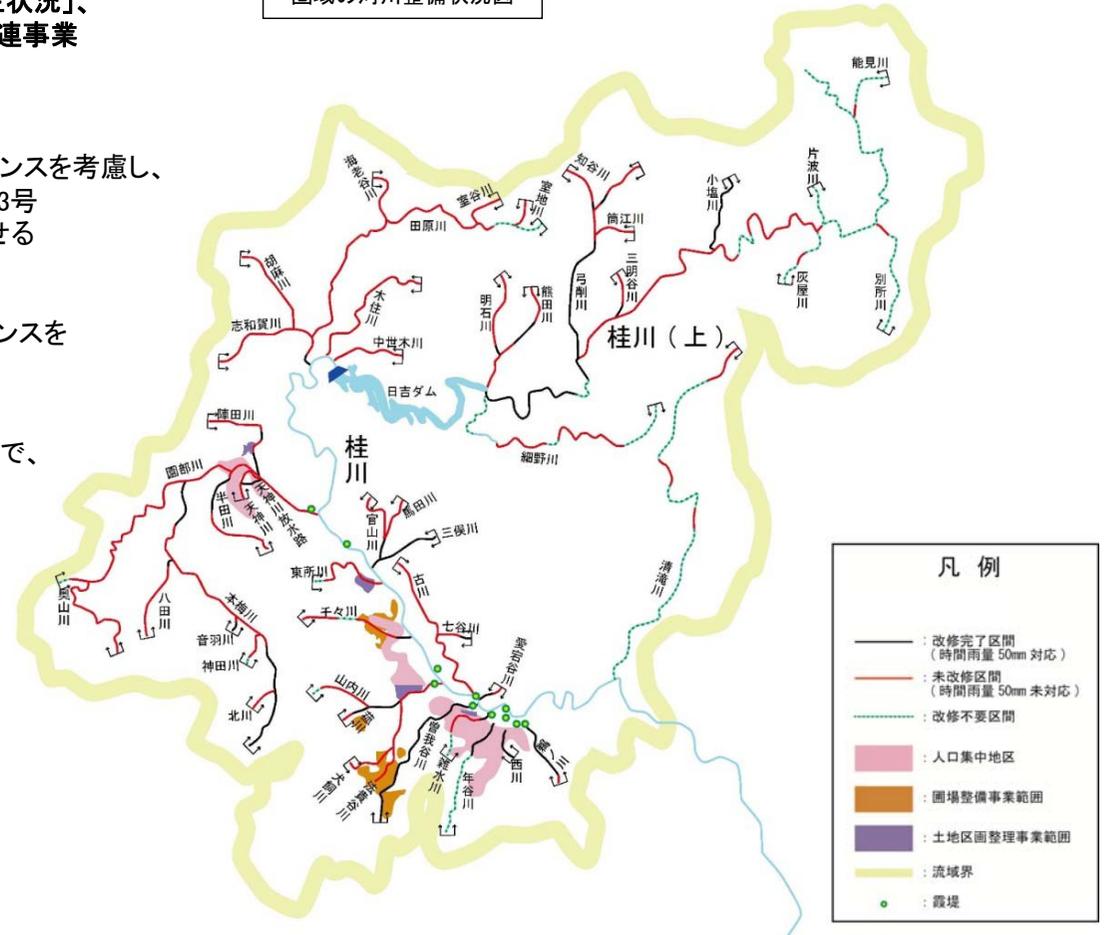
整備対象河川は、「河川の現況流下能力」、「近年の出水による被害の発生状況」、「想定氾濫区域内の人口と資産や河川の特長」、「既存事業の継続性」、「関連事業の有無」など、さまざまな観点から総合的に評価した上で選定する。

- 桂川本川（保津峡上流～日吉ダムまでの区間）については、上下流バランスを考慮し、淀川水系河川整備計画と整合する戦後最大の洪水である昭和28年台風13号洪水（概ね30年に1回程度の降雨により予想される洪水）を安全に流下させることを目標に整備する。
- 桂川（上）（日吉ダム管理区間より上流の区間）については、上下流バランスを考慮し、下流の計画と整合する規模により整備する。
- 支川については、「抽出の基本的な考え方」に基づき総合的に評価した上で、整備対象河川を抽出し整備する。

### 抽出の基本的な考え方

- ・概ね時間50mm対応（概ね1/10の治水安全度）していない区間を有する河川
- ・近年の出水により外水氾濫の被害が発生している河川
- ・人口集中地区を含む河川や天井川区間を有する河川
- ・既存計画の事業継続の必要性がある河川
- ・関連事業を有する河川

圏域の河川整備状況図



※人口集中地区・・・人口密度が4,000人/km<sup>2</sup>以上の基本単位地区等が市区町村の境界内でお互いに隣接し、それらの隣接した地域の人口が5,000人以上を有する地域

※河川整備率・・・(整備済延長÷要改修延長(河川管理延長-改修不要延長))×100

出典 1)統計局HP 2)京都府

# 4. 整備対象河川の抽出 (2/3)

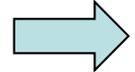
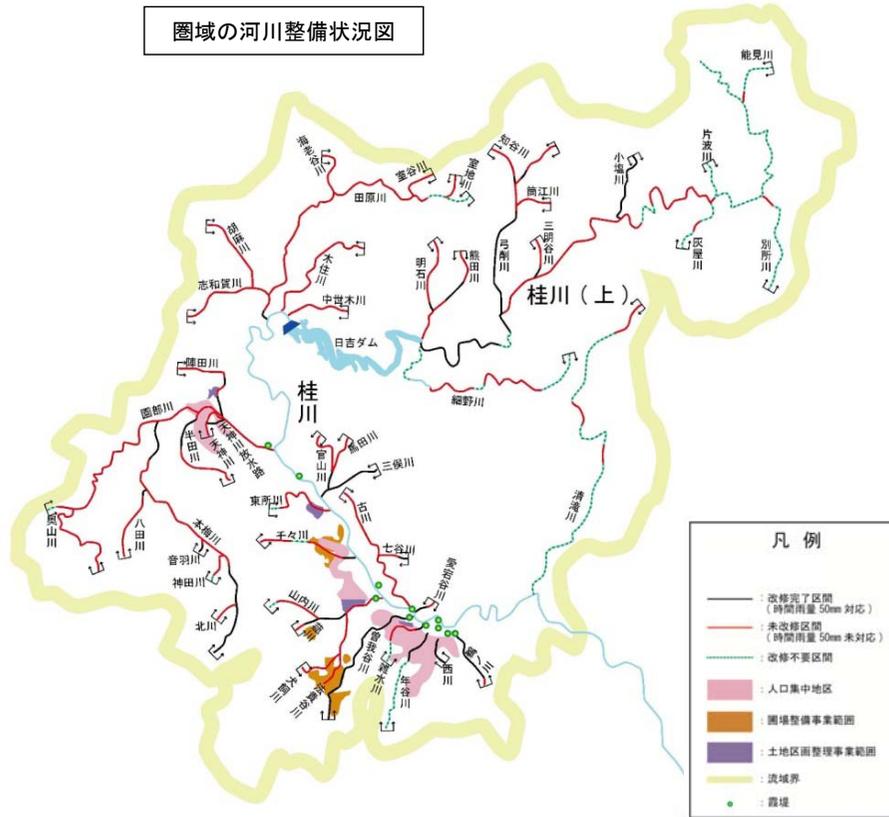
## 河川整備計画の整備対象河川の抽出

### 整備対象河川の抽出(1/2) 保津峡上流から日吉ダムまでの区間

- ・概ね時間50mm対応（概ね1/10の治水安全度）していない区間を有する河川
- ・近年の出水\*）により外水氾濫の被害が発生している河川
- ・人口集中地区を含む河川や天井川区間を有する河川
- ・既存計画の事業継続の必要性がある河川
- ・関連事業を有する河川

\*）平成元年以降の水害統計（国土交通省）によって確認

圏域の河川整備状況図



桂川本川と条件を満たす支川の**雑水川、七谷川、犬飼川、法貴谷川、千々川、東所川、園部川、天神川、陣田川**を河川整備計画の整備対象河川とし、重点的かつ優先的に整備を実施するものとする。

整備の優先度の高い河川の抽出結果

本川	一次支川	二次支川	三次支川	改修状況 時間雨量 50mm対応の 必要性の有無	洪水被害 近年洪水による 浸水被害 の有無	現況 人口集中地区 天井川区間 の有無	既定計画 の有無	関連事業 の有無	河川整備計画の実施対象	
									選定理由	整備対象
桂川				○	○	○	○	—	浸水被害があり、未整備区間で事業実施中	○
	鵜ノ川			—	—	—	—	—	—	—
	西川			—	—	○	—	—	—	—
	年谷川			—	—	○	—	—	—	—
	雑水川			○	○	○	○	—	浸水被害があり、未整備区間で事業実施中	○
	愛宕谷川			○	—	—	—	—	—	—
	曾我谷川			—	—	○	—	—	—	—
	七谷川			○	—	○	—	—	天井川区間あり、事業計画中	○
	古川			○	—	—	—	—	—	—
	犬飼川			○	○	○	○	○	浸水被害があり、未整備区間で事業計画中	○
	法貴谷川			○	—	—	○	○	未整備区間で事業実施中	○
	山内川			○	—	—	—	—	—	—
	菰川			○	—	—	—	○	—	—
	千々川			○	○	○	○	○	浸水被害があり、未整備区間で事業実施中	○
	東所川			○	○	—	—	○	浸水被害があり、未整備区間で事業実施中	○
	三俣川			—	—	○	—	—	—	—
	官山川			○	○	—	—	—	—	—
	馬田川			○	—	—	—	—	—	—
	園部川			○	○	○	○	—	浸水被害があり、未整備区間で事業実施中	○
	天神川			○	—	○	—	—	未整備区間で事業実施中	○
	天神川放水路			—	—	○	—	—	—	—
	陣田川			○	—	○	○	○	未整備区間で事業実施中	○
	半田川			○	—	—	—	—	—	—
	本梅川			○	○	—	—	—	—	—
	八田川			○	—	—	—	—	—	—
	音羽川			○	—	—	—	—	—	—
	神田川			○	—	—	—	—	—	—
	北川			○	—	—	—	—	—	—
	奥山川			○	—	—	—	—	—	—
	田原川			○	○	—	—	—	—	—
	胡麻川			○	○	—	—	—	—	—
	志和賀川			○	○	—	—	—	—	—
	海老谷川			○	○	—	—	—	—	—
	室谷川			○	○	—	—	—	—	—
	室地川			○	—	—	—	—	—	—
	木住川			○	○	—	—	—	—	—
	中世木川			○	○	—	—	—	—	—
	清滝川			○	—	—	—	—	—	—

\* 本計画は、現時点の流域の社会状況・自然状況・河道状況等に基づき策定するものであり、策定後においてもこれらの状況の変化に応じて、適宜見直しを行う。

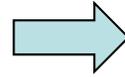
# 4. 整備対象河川の抽出 (3/3)

## 河川整備計画の整備対象河川の抽出

### 整備対象河川の抽出(2/2) 日吉ダム管理区間より上流の区間

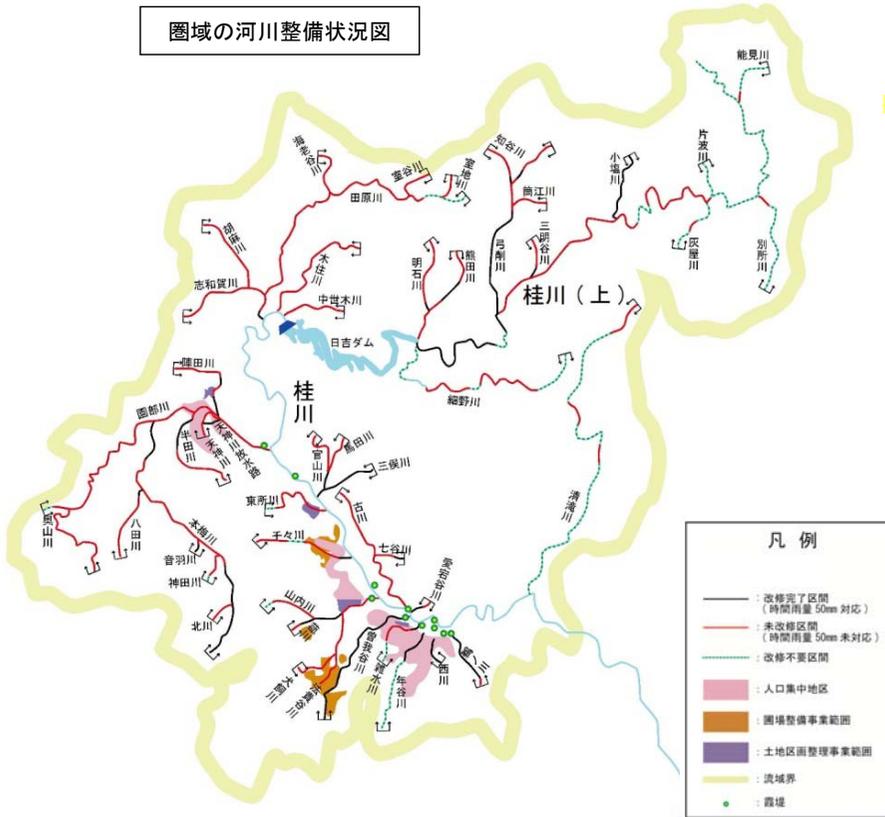
- ・概ね時間50mm対応（概ね1/10の治水安全度）していない区間を有する河川
- ・近年の出水\*）により外水氾濫の被害が発生している河川
- ・人口集中地区を含む河川や天井川区間を有する河川（該当なし）
- ・既存計画の事業継続の必要性がある河川
- ・関連事業を有する河川（該当なし）

\*）平成元年以降の水害統計（国土交通省）によって確認



**桂川(上)**を河川整備計画の整備対象河川とし、重点的かつ優先的に整備を実施するものとする。

圏域の河川整備状況図



整備の優先度の高い河川の抽出結果

抽出河川

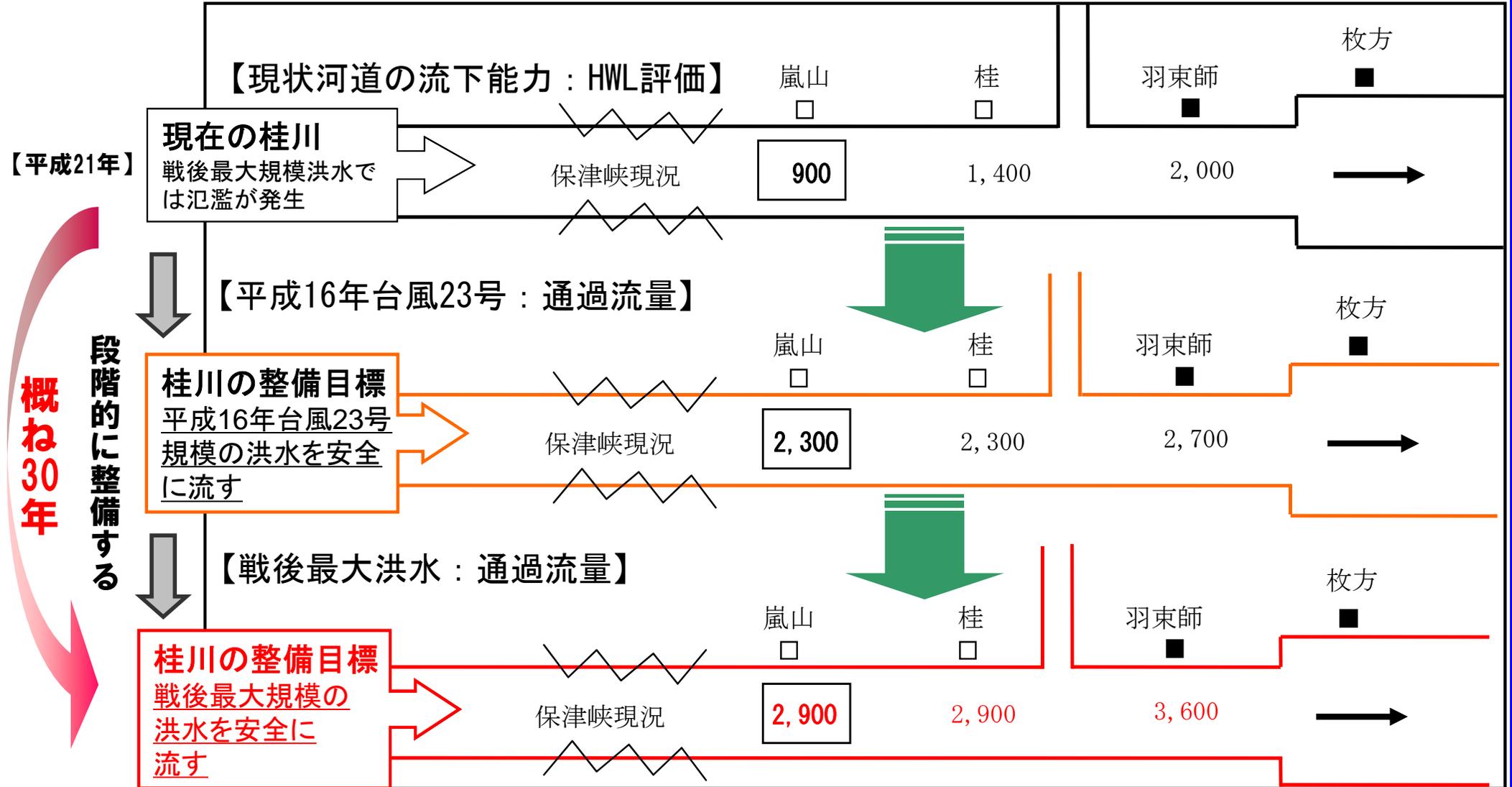
本川	一次支川	二次支川	三次支川	改修状況			現況	既定計画 既計画の有無	関連事業 関連事業の有無	河川整備計画の実施対象	
				時間雨量 50mm対応の 必要性の有無	近年洪水による 浸水被害の 有無	人口集中地区 天井川区間 の有無				選定理由	整備対象
桂川(上)				○	○	—	—	○	—	浸水被害があり、未整備区間で事業実施中	○
明石川				○	—	—	—	—	—	—	—
	熊田川			○	—	—	—	—	—	—	—
細野川				○	—	—	—	—	—	—	—
弓削川				○	—	—	—	—	—	—	—
	簡江川			○	—	—	—	—	—	—	—
	知谷川			○	—	—	—	—	—	—	—
三明谷川				○	—	—	—	—	—	—	—
小塩川				○	—	—	—	—	—	—	—
灰屋川				○	—	—	—	—	—	—	—
片波川				○	—	—	—	—	—	—	—
別所川				○	—	—	—	—	—	—	—
能見川				○	—	—	—	—	—	—	—

\* 本計画は、現時点の流域の社会状況・自然状況・河道状況等に基づき策定するものであり、策定後においてもこれらの状況の変化に応じて、適宜見直しを行う。



## 整備期間と段階整備のステップ（直轄区間）

- 直轄区間の河川整備計画は、概ね30年程度で実施する計画になっている。
- 整備目標は、第1段階として平成16年台風23号実績洪水に対応し、第2段階で戦後最大である昭和28年台風13号実績洪水に対応する河川整備を行う。
- 整備目標流量は、嵐山地点の平成16年台風23号実績降雨の洪水流量が $2,300\text{m}^3/\text{s}$ 、昭和28年台風13号実績降雨の洪水流量が $2,900\text{m}^3/\text{s}$ で計画されており、桂川上流圏域の整備目標の設定において、これらと上下流バランスを図っていく必要がある。



## 流域対策

### 流域対策のメニュー例

近年頻発する局地的な集中豪雨等による浸水被害の軽減に向けて、流域において効果的な雨水の流出抑制に取り組む。

- 計画的な河川整備や下水道の雨水対策に加え、個々の家庭での雨水貯留浸透施設、校庭・公園での貯留施設など、雨水の流出抑制に係わる流域での取り組みを進める。

### ① 流域対策の分類

流域対策施設

#### 貯留施設

- グランド貯留
- 地下空間貯留施設
- 雨水タンク

#### 浸透施設

- 浸透トレンチ
- 浸透側溝
- 浸透ます
- 透水性舗装
- 浸透池

【流域対策施設の分類】

### ② 考えられる取り組み

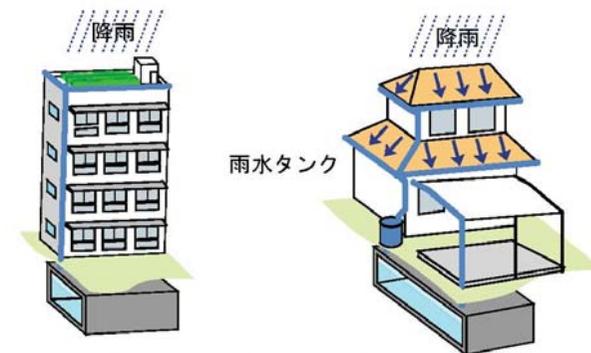
#### 公共施設(学校、公園、庁舎等)

- 歩道の透水性舗装や道路での浸透ますの設置
- 学校施設や公園等でのグランド貯留施設と地下調節池の設置

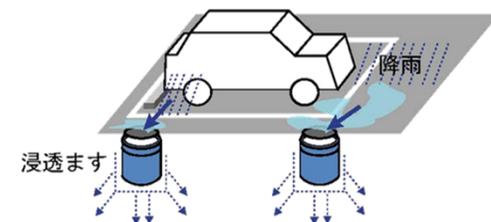


#### 公共施設以外(住宅、駐車場等)

- 屋根に降った雨を貯留する雨水タンクの設置



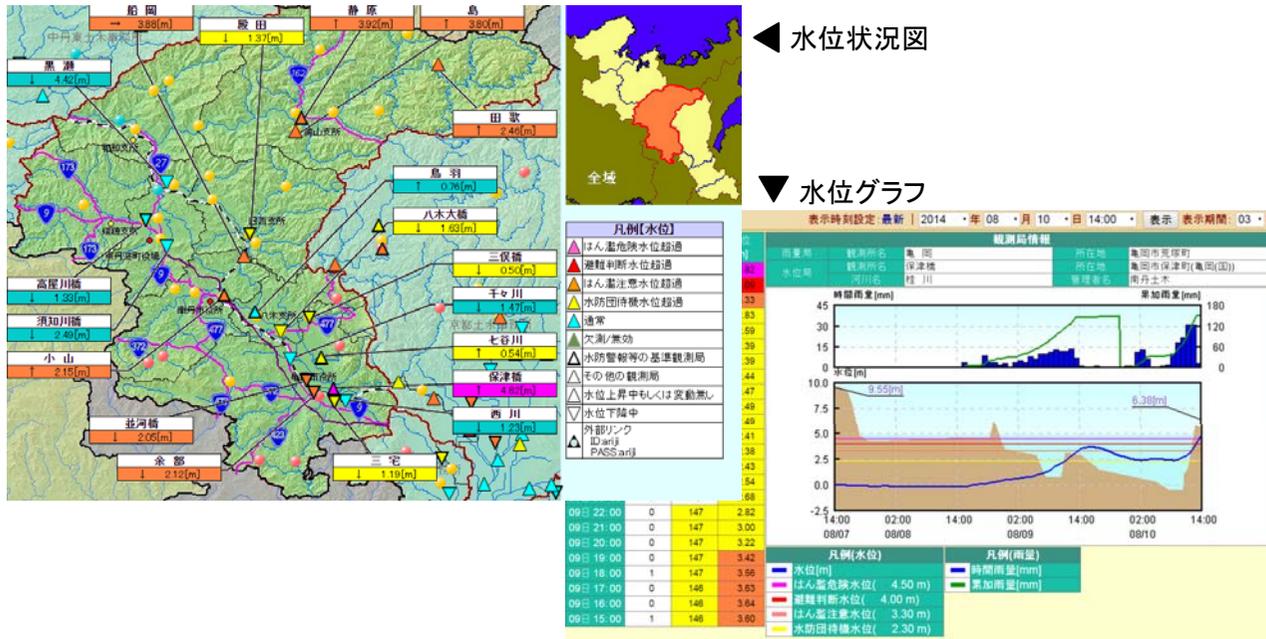
- 駐車場での浸透ますの設置



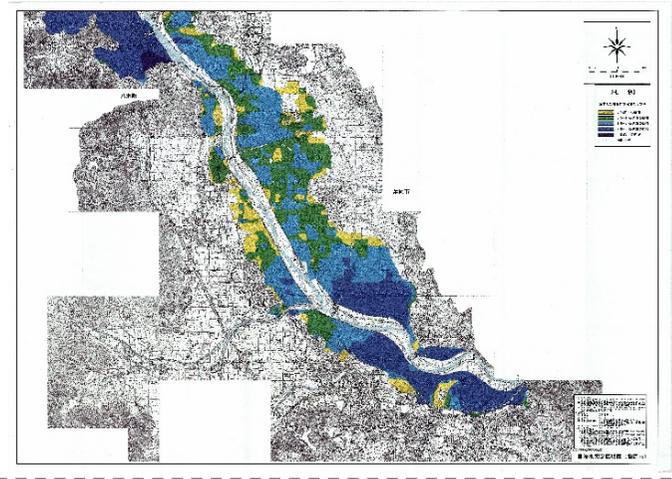
## ソフト対策を組み合わせた効果的な治水対策

整備途上に起こる洪水や目標を上回る洪水による被害を最小限に抑えるため、住民への的確な洪水情報の提供と防災意識の啓発などソフト対策を組み合わせた効果的な治水対策を図る。

### 京都府河川防災情報画面



### 浸水想定区域図(桂川本川:亀岡地区)



### 防災カメラの画像(京都府河川防災情報)



### 京都府防災訓練





## 河川環境の整備と保全に関する目標

本圏域では [ ] などの貴重種や多様な生物が生息している。そのため、生息する我が国固有の生物を中心として在来生物の生息・生育・繁殖環境の保全・再生について、関係機関とも連携して取り組む。

イワツバメ [ ]



(写真出典①②③④⑤ : 「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」、(株)山と溪谷社)